

「ビッキビキ！！バッキバキィィ！！ビクンビクン！！」

イケメンズル剥けバキバキデカチンが大きくそそり勃っている。血管が浮き出てゴツゴツの巨根チンポは雄々しく傘を広げて、逞しさを主張している。

「おっきい♥すごい棒お♥」とレイラ。

「それではスタートお♥」

巨根に我慢できないのか、レイラはルキにまたがると一気にデカチンを飲み込んだ。

「ズボォ♥♥」

「お♥おっきい♥へア～～♥」

いきなりアへ顔をさらすレイラ。

腰を下ろしたはいいが、後ろにのけ反って小刻みに身体を震わせている。

「ほらほらあ♥スタンプスタンプう♥」

ルキが急かす。

「くう♥は・・・いい♥」

俺の時と同様に腰を持ち上げて落とすレイラ。

「だふん♥」

俺の時よりも弱々しいスタンプだ。

「ごへえ～♥奥に当たってえ♥ダメこれえ♥」

舌を出して悶えるレイラ。

「ダーリンの粗チンと全然違ううう～♥硬くて、長くて、太すぎるう♥おまんこいっぱい広げられて、奥にゴツゴツ当たるう♥ダメェ♥動けないいい♥イっちゃう～♥」

俺の時とは真逆の展開だった。

レイラは気持ち良すぎるのか、全然動けなかった。

「ほらほら♥スタンプしてよお♥時間が過ぎちゃうよ♥」

ルキは頭の後ろで手を組んだまま、余裕の表情で腰を左右に揺らした。

「あ♥ちょっ♥動かさないでえ～♥」

「ほらほらほらあ♥」

意地悪く腰を揺らすルキ。

「奥に当たってるう♥当たってるのお♥イイところ、擦れちゃう♥あ♥イ♥イック♥」

「ヌポン♥」

デカチンを抜くと同時に後ろ手に床に手をつき、デカチン目掛けて潮を噴き出すレイラ。

「あちょ～♥あっちょ～♥」

無様に舌を出したアへ顔で叫ぶレイラ。

「おお♥チンポ♥あったけえ～♥」

潮を浴びて悦ぶルキ。